

「命の道」

伊豆縦貫自動車道だより

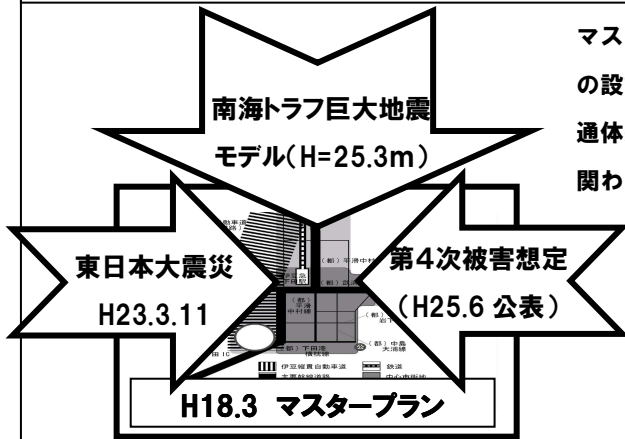
～平成 24 年 5 月発行

「もう待てない！」災害に強い伊豆縦貫道

東日本大震災では、「くしの歯」作戦と呼ばれる復旧作業で迅速な救援活動が行われました。この作戦を可能にしたのは、高規格幹線道路が存在したからです。では、今の下田に同規模の大震災が発生したら、どうでしょう？高規格幹線道路が無い下田では、救援活動に想像出来ない程の日数がかかります。「もう待っては、いられない！」下田には伊豆縦貫道が必要です。

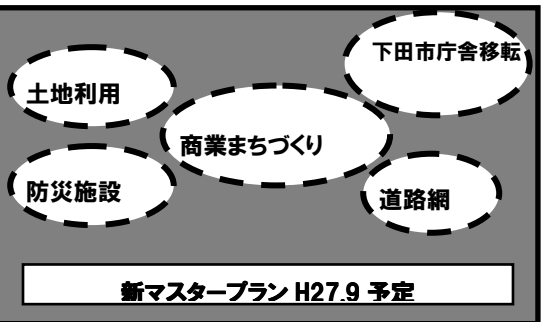
マスタープランは、「まちの設計図」伊豆縦貫道の交通体系、土地利用等に深く関わっています。

マスタープラン改訂後に東日本大震災が発生し、南海トラフ巨大地震モデルでの津波高が公表され、防災のまちづくりを加味したマスタープラン作成が必要になった。



平成18年3月に伊豆縦貫自動車道や第3次被害想定を加味した、「あるいて楽しいまちづくり」の実現を目指して下田市都市計画マスタープランを改訂しました。

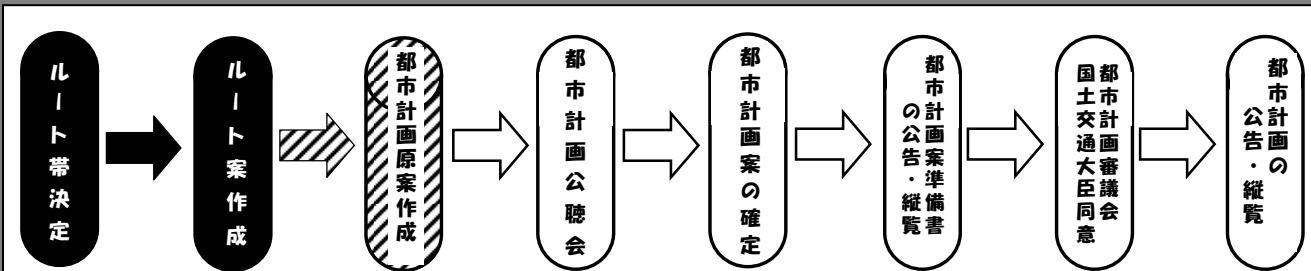
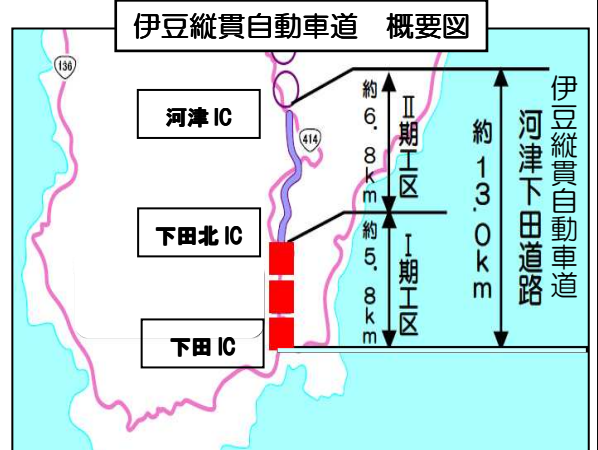
が、しかし



東日本大震災での教訓

～ 東日本では「くしの歯」作戦で早期復旧 ～

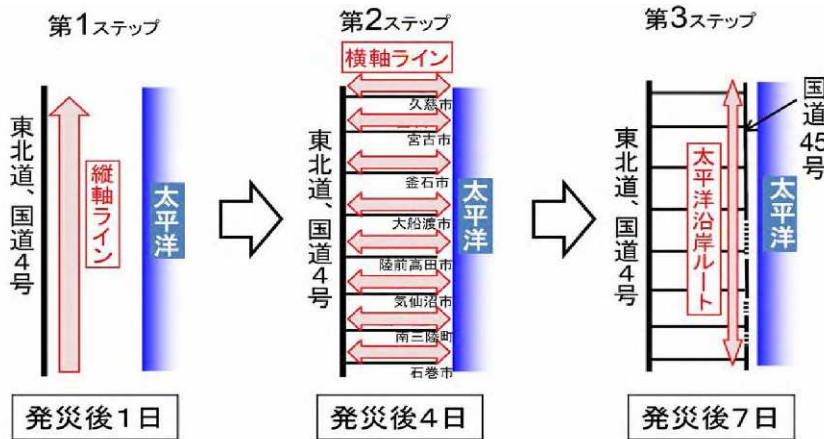
2011.3.11 巨大津波で被災した東北地方の沿岸部は、東北自動車道や国道4号を中心として、内陸に縦軸のラインを確保し、その後、太平洋沿岸地区へのアクセスとして横軸ラインを確保した。ここまで発災から4日間【関連記事は裏面参照】



伊豆縦貫自動車道都市計画原案説明会はじまる

(開催の日程は、6月1日発行の「広報しもだ」でお知らせします)

迅速な緊急対応を可能にした「くしの歯」作戦



国道4号から各路線経由で
国道45号及び国道6号までの啓開状況



三陸縦貫自動車道の果たした役割

① 高規格幹線道路は災害に強い道路であった！

宮城県内の三陸縦貫自動車道(一部開通区間)は、過去の津波浸水域よりも山側に位置するように高台ルートや、高架橋構造として高い位置に計画されました。

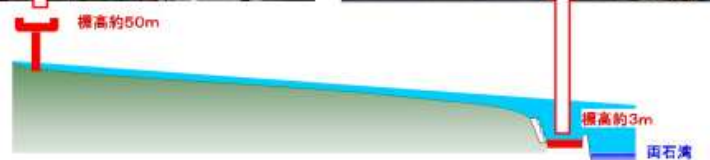
そのため、東日本大震災では、津波の被害はなく、道路としての機能を保持し、東北縦貫自動車道とともに、被災地の救助・救援活動のアクセス道路や救援物資の緊急輸送路として、大きな役割を発揮しました。

② 副次的に緊急避難路として活用が可能に！

本来の機能は道路としてですが、津波発生時には、緊急的に地域住民が盛土部分を駆け上がり無事でした。また、小中学校の生徒は一部道路を避難経路として活用し、避難時間が短縮し無事でした。

▼三陸縦貫自動車道
(一般国道自動車専用道路)

▼国道45号(釜石市内)
(海岸線沿いの国道)



※過去の津波を考慮して道路を高台に計画

